

インターネットのゲームにおける高額課金のトラブル

子どもたちの間ではスマートフォンやタブレット用に作られた「ソーシャルゲーム（ゲームアプリ）」の人気の高まっています。このようなゲームの多くは無料でダウンロードできる反面、お金を使う（課金する）要素も含まれるため、子どもの利用には注意が必要です。



ソーシャルゲームの課金の仕組み

基本的にソーシャルゲームは無料で遊ぶことができますが、ゲームの進行を早めたり、より便利なアイテムを手に入れたりするには、お金を使う（課金する）場合があります。

課金には、クレジットカードの認証や、電子マネーのプリペイドカード番号を入力する必要があるのと同時に、多くの場合、利用規約を読んで承諾する旨の確認や、未成年の利用者に配慮し「お家の人に許可をもらっていますか？」などの質問に回答するなど、通常の買い物と同じようにルールに則って行われています。

よくある課金のトラブル（特に小・中学生の場合）

子どもが保護者のスマートフォンやタブレットを使っている場合、クレジットカードの設定などが機器にそのまま残っていて、子どもがそれをもとに課金をしてしまうことがあります。子どもは課金のシステム自体をきちんと理解していない状態で、ソーシャルゲームで遊んでしまっている場合があり、保護者の知らない間に機器に残っているクレジットカード情報で課金し、後から高額な請求がくるといったトラブルが起こり得ます。

また、課金の仕組みを理解して使っていても、実際の買い物と比べてお金を払っている感覚が希薄になるため、少額の課金を繰り返し、気が付いたときには高額な課金になってしまったということもあります。



指導の要点

まず、ソーシャルゲームの仕組みを理解させ、実際の買い物と同じように、インターネット上でも買い物をすればお金がかかることをきちんと教える必要があります。ソーシャルゲームに限らず、インターネット上では「はい」か「いいえ」のような選択を求められる場合があり、自分が何を認証しようとしているのかをきちんと判断した上で選択することを指導してください。

また、自分で判断することが難しい場合は、進行する前に保護者に相談するよう指導してください。